

**DH SYSTEM**

大日本塗料株式会社

商品番号 1907

エポニックスH-Rスマイル

1. 塗料名 弱溶剤超厚膜形エポキシ樹脂塗料
2. 規格 社内規格
3. 特徴
 - 1) 1回塗で厚膜が得られ、塗装作業性が良好である。
 - 2) 弱溶剤使用のため、臭気等も少なく、塗装作業環境を改善できる。
 - 3) 各種旧塗膜への塗重ね適合性にすぐれ、塗替用にも適している。
 - 4) 素地調整が ISO-St3 (SSPC-SP3) でもすぐれた浸透性、付着性、防錆性を発揮し、塗替用及びブラスト処理が不可能な場合にも適している。
 - 5) 無公害特殊防錆顔料の効果により、非常にすぐれた耐食性を発揮する。

4. 塗料性状

項目	内容					
容姿	2液性					
荷姿	20kg セット (主剤 : 18.0 kg、硬化剤 : 2.0 kg)					
色相	N-7.0、N-8.5					
密度 (23°C)	塗料	1.40 (N-7.0)				
	揮発分	0.82				
加熱残分	80% (N-7.0)					
乾燥時間	温度	5°C	10°C	20°C	30°C	40°C
	指触	3時間	2時間	1時間	40分	30分
	半硬化	18時間	12時間	6時間	4時間	3時間
標準膜厚	300 μm、150 μm					
引火点	SDS参照					
発火点	SDS参照					
爆発限界 (下限~上限)	SDS参照					

上記塗料性状の数値は標準を示すものであり、若干の変動がある。

5. 塗装基準

項目	内容					
素地調整	—					
調合法	主剤 90 部、硬化剤 10 部 (重量比)					
可使時間	5°C	10°C	20°C	30°C	40°C	
	8時間	6時間	5時間	2時間	1時間	
温度・湿度制限	温度 : 5°C以下、湿度 : 85RH%以上					
使用シンナー	塗料用シンナー又は塗料用シンナーA					
塗装法	塗装方法	刷毛塗装			エアレス塗装	
	希釈率	0~5%			0~10%	
	標準使用量	410g/m ²		820g/m ²		1000g/m ²
	標準膜厚	150 μm		300 μm		300 μm
	ウェット管理膜厚	200 μm		400 μm		500 μm
エアレス塗装条件	1 次圧 0.4MPa (4kg/cm ²) 以上、 2 次圧 12MPa (120kg/cm ²) 以上 チップNo.163-417~631 (ゲラコ) 又は相当品					
塗装間隔 (20°C)	温度	5°C	10°C	20°C	30°C	40°C
	最小	48時間	36時間	24時間	24時間	24時間
	最大	14日	10日	10日	10日	7日

注) 標準使用量は被塗物の形状や塗装条件によって異なる。

6. 施工上の注意

- (1) 被塗面の油・湿気・じんあい、水分、その他の有害な付着物は完全に除去する。旧塗膜上に固着した粉状異物は研磨にて十分除去する。
- (2) 使用時には主剤と硬化剤を規定の割合に混合し、十分攪拌して均一な塗料状態にする。混合比を間違えると十分に塗膜性能を発揮しないばかりか、塗膜が硬化しないことがある。
- (3) 一度に厚く塗り付けるハイビルドタイプの塗料である。刷毛さばきをよくする為の過度の希釈や必要以上に伸ばして塗装することなく所要量を塗布し、膜厚保持に努める。
- (4) 主剤粘度は特に低温時期に高くなる。開缶前に振倒することで流動性が得られ、取り扱いし易くなる。
- (5) 規定範囲内で塗り重ねを終えるようにすること。尚、規定以上経過した場合は塗膜表面をサンドペーパー等にて研磨し更に、ウェスにて拭いて調整してから塗装すること。
- (6) 希釈には塗料用シンナー、または塗料用シンナーAを使用すること。
- (7) 塗装終了後の使用機器は直ちに塗料用シンナー又はラッカーシンナー等で十分に洗浄する。硬化反応が進行した塗料は塗料用シンナーでは洗浄が困難な場合があるので、その場合はラッカーシンナー等を洗浄に使用すること。

7. 関連法規

	主 剤	硬 化 剤
危険物表示	指定可燃物	第4類第2石油類
有機溶剤区分	第3種有機溶剤含有物	第3種有機溶剤含有物
有害物質表示	SDS参照	SDS参照
劇物表示	—	—

8. 使用上の注意 [警告]

- (1) 安全情報に関する内容は、SDSをご参照下さい。

使用上の注意の詳細は容器のラベルに表示。